

講義収録ビデオの自己評価による授業改善の試み

石橋 芳雄

Yoshio Ishibashi

薬学教育研究センター 薬学教育部門

Email: yishibas@my-pharm.ac.jp

1. はじめに

明治薬科大学では、教育内容・方法の改善を目的としたFD活動の一環として、学生による授業アンケート評価、教員による相互評価(ピアレビュー)および教育方法改善のための講演会を継続して実施している。さらに今年度は、新たに導入したCbox(講義収録/動画コンテンツ作成システム)およびMY-CAST(moodle)を利用し、講義収録ビデオの自己評価を実施したので、その概要を報告する。

2. 実施方法

講義ビデオはCboxにより収録し、これをPower contents server (PCS)によりストリーミング配信した。各教員はMY=CAST(moodle)を介してこのビデオを閲覧し、アンケート形式で自己評価した。評価は以下に示す選択肢形式4項目および自由記述形式3項目の計7項目についておこない、また、ビデオによる自己評価についても併せてアンケートを行った。

評価項目

(選択肢)

1. 聞き取りやすさ(声の大きさやスピード)

(1)思ったより聞き取り易い (2)イメージどおり (3)やや聞き取りにくい (4)思ったより聞き取りにくい

2. 話の展開・進行の早さ

(1)思ったより早い (2)やや早い (3)イメージどおり (4)やや遅い (5)思ったより遅い

3. 講義内容のわかり易さ

(1)思ったより難しい (2)やや難しい (3)イメージどおり (4)やや易しい (5)思ったより易しい

4. アイコンタクトや問いかけなどによる学生理解度の確認

(1)思った以上に行っている (2)イメージどおり行っている (3)あまり行っていない (4)ほとんど行っていない

(自由記述)

1. 話し方の癖、歩き方、姿勢、学習者に与える印象などで自身が気づいたこと

2. 振り返りで気づいた自分の長所・短所

3. 今後、講義の際に気をつけようと思うこと

ビデオによる自己評価についてのアンケート

1. 今回のビデオによる自己評価は授業改善に役立ちますか。

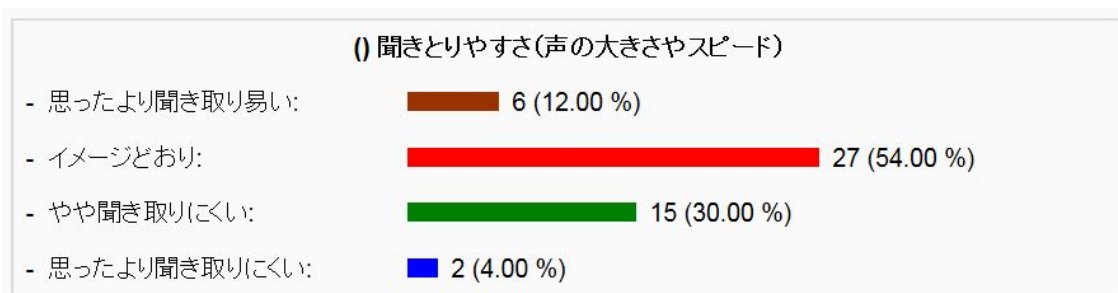
はい いいえ どちらともいえない

2. 今回収録したビデオを全教員に公開しますか。

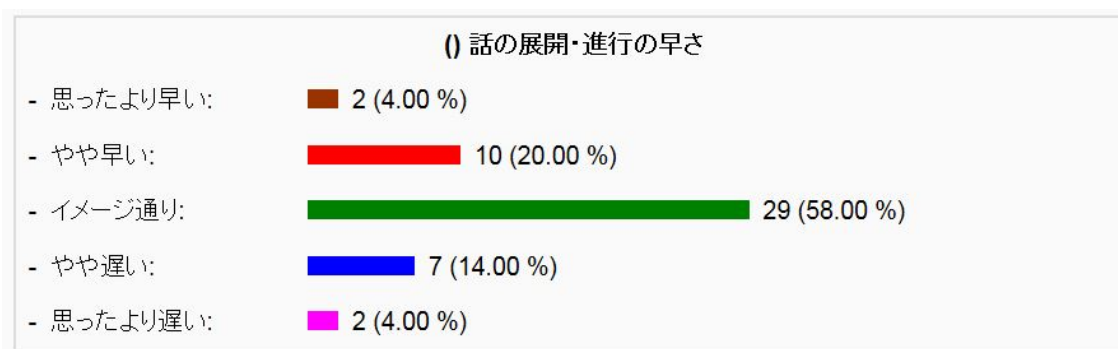
はい いいえ

3. 結果および考察

(1) 聞きとりやすさ（声の大きさやスピード）については、おおむねイメージどおりであるが、マイクを通して聞く自身の声は聞き慣れていないため、思っていた印象とは違うと感じた教員も少なくなかった。

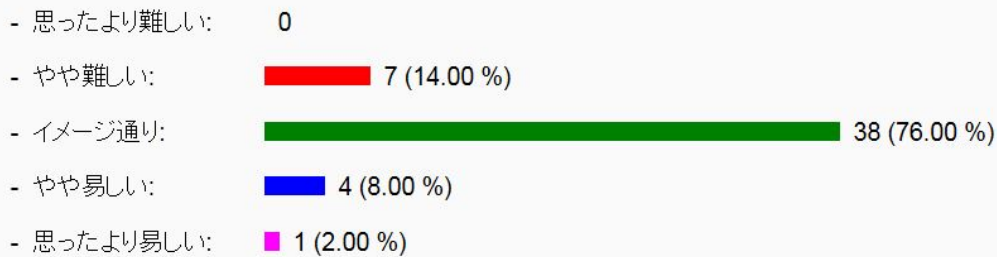


(2) 話の展開・進行の早さについては、「イメージどおりできている」と回答した教員が58%と最も多く、「早く感じた」が24%、逆に「遅く感じた」が18%であった。各教員は講義内容の難易度や重要性に応じて進行度を調節する必要性を認識しており、この観点から振り返りができたものと考えられる。また、単調にならないようメリハリをつけたいという意見もみられた。



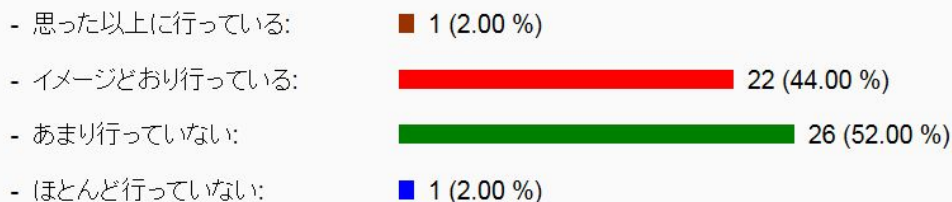
(3) 講義内容のわかり易さについては、ほとんどの教員はわかり易い講義を心がけ、それを実践できていると感じていた。しかしながら、これはあくまでも教員自身の見解であり、学生による評価、同僚評価とのすり合わせが必要である。

(I) 講義内容のわかり易さ



(4) アイコンタクトや問いかけなどによる学生理解度の確認は、あまり意識的には行われていないことがわかった。

(I) アイコンタクトや問いかけなどによる学生理解度の確認



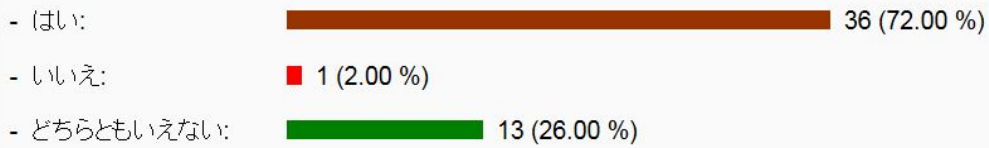
(5) 話し方の癖、歩き方、姿勢、学習者に与える印象などで自身が気づいたことについては、「話の切れ目があまりない」、「歩き回る癖」、「姿勢が前かがみで良くない」、「板書の文字が小さい」、「マイクで音が拾えていないことに気付いていない」、「チョークの色使いに一貫性がない」、「Power point への書き込みが読みづらい」などの回答が寄せられた。

(6) 振り返りで気づいた自分の長所として、「解説は分かりやすい」、「おもしろい講義である」、「内容的には問題ない」などが挙げられ、講義内容のわかり易さの自己評価と一致する回答が得られた。一方、短所については、「単調になっている」、「メリハリをつけた方がよい」、「講義前半に比べ、後半（特に最後 10-15 分）は講義のスピードが上がり、全体として、余裕がない」、「アイコンタクトが不十分である」などの回答が見られた。

(7) 今後講義の際に気をつけようと思うことについては、「説明が単調にならないようにする」、「簡単に説明して済ませてよい部分と、しつこいくらいに強調すべき部分のメリハリを、これまで意識していた以上に大げさにするくらいでもいいのかもしれない」、「学生に指名したり、質問したり緊張感をもたせる」、「時間配分を考えておき、限られた時間内で理解出来るよう説明の仕方を予習しておく」などがあつた。

(8) 授業収録コンテンツによる自己評価が授業改善に役立つかどうかの問いについては、約 7 割の教員が授業改善に役立つと回答した。

(j) 今回の講義収録コンテンツによる自己評価は授業改善に役立ちますか？



(9) 授業改善に役立つ理由として、「学生側からどう見えているか、聞こえているかを確認できた」、「以前から自分で気になっていた点がビデオで確認できた」、「改善への取り組みのきっかけになった」などが挙げられる。また、否定的あるいはどちらともいえない理由としては、「教える側の自己評価であるため、聞いている学生の意見は想像しにくい」、「何よりも、学生からのコメントを頂きたい」などがあり、やはり教員自身も学生による授業評価を重要視していることがわかった。

(10) 今回収録した講義ビデオの全教員に向けての公開については2割以上の教員から同意が得られた。

(k) 今回収録した講義ビデオを全教員に公開しますか？



4. まとめ

ビデオによる自己評価は、自身の講義を俯瞰することができ、話し方、姿勢、マイクの使い方、板書など、講義スキルの改善には効果的であると考えられる。一方で、講義内容については、多くの教員が適切と判断しており、自己評価を講義内容の改善につなげるのは難しいことがわかった。学生による評価、同僚評価との組み合わせにより、ギャップを埋めることが必要と考えられる。

5. 今後の取組みと課題

ビデオの公開を承諾した教員については、ビデオによる同僚評価(ピアレビュー)を実施し、自己評価とのすり合わせを行う予定である。このピアレビューは、他者評価というよりはむしろモデル講義の閲覧という観点で捉えてもらい、他者の講義を参考にして自身の講義手法に取り入れるよう役立ててもらえればと考えている。

前述のように、学生による評価を重要視している教員は多い。今後、学生評価をどのように講義改善に結び付けていくかが課題である。